

風土記の丘の花だより⁸¹

今、そしてこれから見られる植物(2021年4月10日)

駐車場から続く道にカンザンという品種のサトザクラが見事に咲いています。安藤塚のギョイコウも満開です。それはそれで豪華できれいですが、山ではカスミザクラ



がとてもきれいに咲いています。薄緑色の葉と白い花が混じり合って、全体的にホワッとした印象です。前山A地区にたくさんのカスミザクラの木がありますが、今は工事の関係で歩けません。でも、あちらこちらで咲いています。谷山家の庭から見上げるのもきれいですし、万葉植物園にも何本も咲いています。いま山で咲いているサクラはみんなカスミザクラと思っていいと思います。写真は前山A 13号墳近くの大きなカスミザクラです。見事ですね。この周辺にはこのような大きな木が何本もあります。



マツにも花が咲いています。サクラのようなきれいな花ではありませんが、失礼ながら、これでも花です。これは雄花で、揺すってみると黄緑色の花粉がいっぱい漂います。昔、この時期になるとマツの花粉で屋根瓦が黄色くなり、私の親などはそれを「松のみどり」と呼んでいたことを覚えています。今アカマツとクロマツどちらにも花が咲いています。葉の先を触ってチクっとしたらクロマツ、痛くなかったらアカマツです。(いい加減な見分け方ですね。)



ツツジの花も咲き始めました。写真は山に自生するモチツツジです。花の付け根がネトネト粘つくので「餅つつじ」という名前です。花は淡いピンク色です。園内にはあとヒラドツツジやクルメツツジなども植えられていて、様々な色の花を咲かせてくれます。



最後は変わった形のウラシマソウの花です。旧柳川家の南の山裾や、大日山35号墳などで咲いています。何と言ってもこの花の特徴は、花の中から糸のようなものが細長く伸びていることです。それを浦島太郎の釣り竿から伸びる釣り糸に見立ててこんな名前になったそうです。このような花の形を「仏炎苞・ぶつえんほう」と言います。ミズバショウやカラーなどの花と同じ作りです。 松下